



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

大石 容一

OISHI, Yoichi / Professor

大阪港 リノベーションプロジェクト —大阪ベイエリアの活性化を目指して—

Renovation Project of Osaka Port: Aiming to Revitalize Osaka Bay Area

水都大阪の玄関口として、その役割を変えながら発展してきた大阪港。現在では、USJ・海遊館を中心としたベイエリアを形成し、大阪でも有数の観光地として賑わいを見せている。

その一方で、再開発の波から取り残された地区は、全く異なった様相を呈している。高齢化・人口減少が急激に進み、70年代の在りし日の港湾都市の遺構を残すのみに至っている。2025年には同じベイエリアにて55年振りとなる大阪万博も開催されることも決定しており、ますます大阪観光における港湾地区の存在感は高まりつつある。

そこで、ベイエリア活性化の一翼を担う大阪観光の新たなハブとなる観光施設の提案を行う。旧倉庫のリノベーション・未活用地域の有効利用をメインとし、飲食・物販・宿泊・観光アクティビティなどの様々なコンテンツを組み込んだ複合観光施設を目指す。



インテリア部門賞

松村 怜朗

MATSUMURA, Reo

都市型農園の極上レストラン —「食」と「農」のテーマパーク—

Finest Restaurant in Urban Farm: Theme Park for Food and Agriculture



農園と様々な栽培技術で生産した食材（野菜・果物）を使用したイタリアンレストランを設計します。

人類はかつて自然の中で暮らし、自然に生きているものを採取し食物を手に入れてきました。現代の私たちはスーパーマーケットや飲食店で提供される食材がどのように生産されているのかを知る機会ほとんどありません。もし生産から消費までの流れを知ることができる場所があれば「食」と「農」に興味を持ち、私たちにとって当たり前の自然の恵みを再認識し、その幸せを次の世代につなげていけるのではないかと考えます。

敷地は大阪府豊中市に位置し、豊中台地は前面に低地をひかえた水の得やすい場所性があり、自然発生的に集落が生まれ、弥生時代後期以降に海拔10メートル以下の低地が水田地帯へと発展した歴史があります。

時代とともに住宅が立ち並び都市化が進んだひとつの場所で「食」をテーマにした新しい施設を提案します。

太田 雅洋
OTA, Masahiro



縁側と土間のある都市空間 — 学生時代に日本を感じる大切さ —

Urban Space with Engawa and Doma: Importance of Feeling Japan during School Days

脈々と流れてきた日本の空間デザインが持つ人と自然との「ほどよい距離感」は、現代の私たちにとって潜在的に求めている日常の風景ではないだろうか。

特に都市環境のなかでその「ほどよい距離感」を日常化することは至極困難な事かも知れない。

そこで今回の提案は、人々が本能的に求める「ほどよい距離感」をインテリア空間の連なりの隙間に存在する中間領域—見え隠れする半透明性—として創出し、日本の空間の心地よさを体験できる学生の為のセカンドスクールとして梅田という都市の中心に誕生させる。

縁側で夕涼み

土間に人が集まる

囲炉裏を囲んで飲み食いを楽しむ

畳に寝転んで居眠り

障子越しに見る木々の影



審査会賞
(インテリア部門1位)
山本正明賞

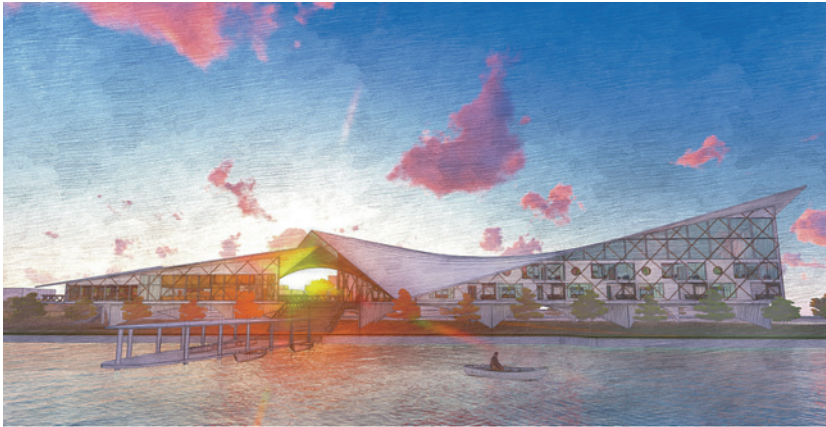
大濱 帆乃佳

OHAMA, Honoka



近江八景 瀬田唐橋 夕照館 近江の自然と歴史を愉しむ旅館

Eight Views of Omi Seta Karahashi Yushokan: Ryokan where You Can Enjoy Nature and History of Omi



滋賀県は他県民に琵琶湖以外の観光地があまり知られていない。

しかし滋賀には、瀬田右岸の石山寺、比叡山の寺院群、彦根城とその城下町、マキノメタセコイア並木、近江八幡の町並みや歴史的に重要な出来事があった場所など沢山の名勝が存在し、また、鮎寿司や近江牛、近江米といった食文化も楽しむことができる。

中でも瀬田の唐橋は歴史的に重要な場所でありながら観光地としての知名度が低いため、今回の提案は瀬田の唐橋エリアに着目したテーマとした。

瀬田の唐橋は夕日の名勝として知られているが、現在、中洲に建つ建築物が唐橋周辺の景観を著しく壊しているため、先ずはその建物を撤去し、美しい周辺環境を整備するべく新たに「近江八景」をコンセプトにした旅館を誕生させ、観光地としての知名度向上を目指す。

近江八景をコンセプトにする理由として、500年以上、景勝地として引き継がれてきた歴史的な魅力を再発見するきっかけに繋がればと考える。



田中 愛実
TANAKA, Ami

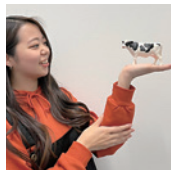
浜寺公園駅周辺のリノベーション — 辰野金吾の建築と新しい空間 —

Renovation around Hamadera Koen Station: Tatsuno Kingo's Architecture and New Space

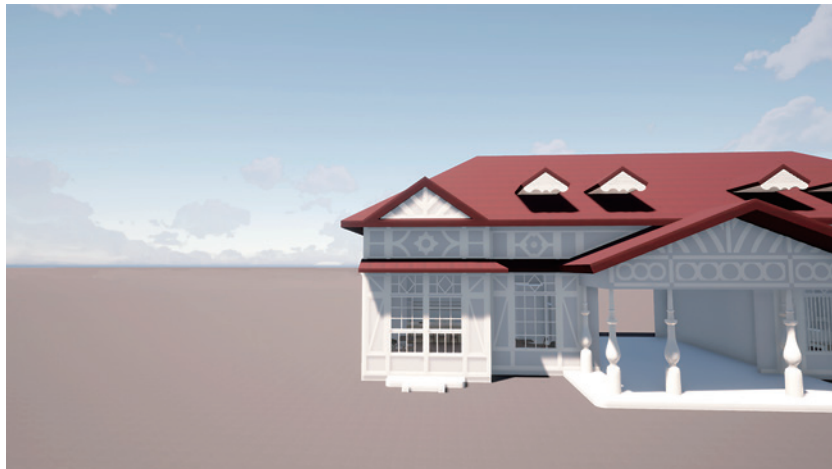
東京駅の設計で有名な辰野金吾による駅舎が大阪堺にあることを知っていますか？

その建物は東京駅と同時期に建設され、ハーフティンバー様式の赤い屋根が印象に残る「南海本線・浜寺公園駅」である。2016年の高架化の路線整備に伴い一度取り壊しが検討されたが、地域住人が共有する文化財を保存したいという強い想いから見送られ、現在は簡易的なカフェやギャラリーとして利用されている。しかし、現在その駅舎は上手く活用されておらず、人が集まる施設として活かされていないことが問題であると考えた。

そこで、その駅舎の基本構造や意匠を守りながら、新たなコンセプトでフルリノベーションし、周辺の町からも訪れてもらえる人気スポットとしての価値創出を目指す。また、駅舎前のロータリーと空き地においても、新たな日常を生み出すイベント広場としての環境整備を提案する。



中板 佳穂
NAKAITA, Kaho



ラーメン横丁 — シャッター街のフルリノベーション —

Ramen Street: Renovation of Abandoned Shopping Street



西成区はかつて「日雇い労働者の街」や「若い女性が行ってはいけない場所」と呼ばれ、近寄りたがたい街として知られている。

しかし、西成には、昔ながらの商店街が建ち並び、昭和レトロの雰囲気が漂う街並みが残っているため、古き良き時代に出会える日本一ディーブな場所として、現在、老若男女、国籍を問わず、注目を集めている。

そうしたノスタルジックな街並みに、日本の国民食であるラーメンの人気店を全国から集結させることで、シャッター街となり使われずにいる新開筋中央商店街に活気を戻すことを目的としている。



長通 佳奈
NAGADORI, Kana



自然からのおくりもの ヒノキが生み出す造形美

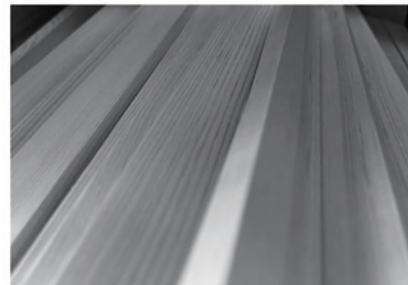
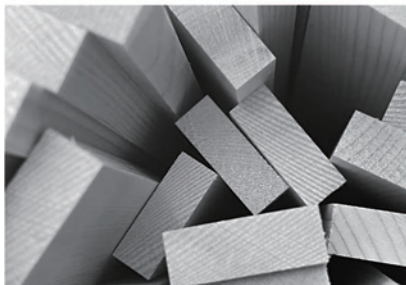
Gift from Nature: Beauty of Form Created by Cypress

ヒノキは古くから法隆寺や伊勢神宮をはじめとした
寺社仏閣などで使われてきました。

強度があり腐食しにくいその自然の恵みによって、現代
にも残る伝統的建築はじめ、日常づかいの生活道具や
工芸品を生み出し、ひいては人々の生活の安全を守り
日本人の精神的創造性を歴史に刻んできました。

今回はそんなヒノキ材を組み合わせて、美しさと日本
らしさを表現する公共家具をデザインし制作します。
基本構造は、9mm×25mmと6mm×30mmの角材を
格子状のユニットで構成されており、そこに生まれる水平
垂直と連続性によって強度を担保し、エレガントな和の
造形美を創出することを目指しました。

想定する設置場所は、国の玄関口である空港ロビー
とし、その空間を印象づけるエレメントとしての「家具＝
小休憩場所」を設け、日本人だけでなく海外から来た
人々にもヒノキの美しさを伝え、日本の精神性を伝える
ことを目的とします。



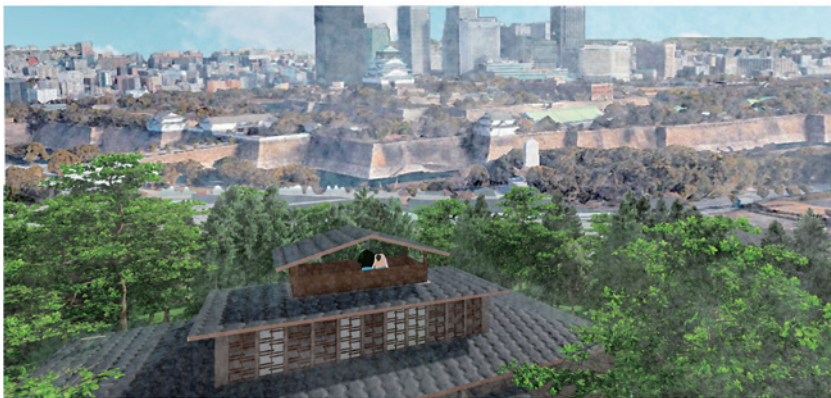
審査会賞
(インテリア部門2位)

林 駿介

HAYASHI, Shunsuke

難波宮ホテル —大阪で体感する自然—

Naniwanomiya Hotel: Experience of Nature in Osaka



大阪の上町台地（現 法円坂付近）には、かつて日本の都であった難波宮が存在していた。大阪の大半が海に囲まれていた縄文時代より、日本の中心地として暮らしが継がれ、商業や経済を大きく発展させた。

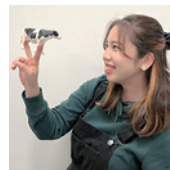
そこで今回、その場所が培ってきた力、歴史の変遷を「大阪の自然」と捉え、世界の人々に利用されるホテルの設計を目指す。

江戸時代、大阪は水都大阪と呼ばれ、水路や橋によって商人や物資が行き交う経済都市が形成された。「大阪のおばちゃん」に象徴されるよう、今も活力は強く、人々の交流や街づくりの手法にも影響されている。「大阪の自然」とは土地の地形や気候、人々の知恵と情熱が築いた「心の風景」を意味することである。

歴史的価値を有する土地であることから、極力傷つけないよう建物の材質を工夫し、インテリアにはそのコンセプトを想起することのできるアイデアを盛り込んだ。

日高 葵香

HIDAKA, Aika



Osaka Metro DESIGN RENOVATION

Osaka Metro Design Renovation

あなたは日本を知っているか。言語、気候、政治、そして文化。我が国には今ここで書き記せないほど様々な魅力がある。しかしその全てをあなたは知り尽くしているだろうか。

話を変えよう、では日本の中心はどこか。地理的中心の岐阜か、はたまた首都の東京か。

いや、126代続く天皇制。初代神武天皇の紀元前660年から江戸へと舞台が変わる西暦1868年。2528年という途方もない年月の間、日本の歴史は関西が舞台であったのだ。

故に日本の文化を作り上げた中心は関西といえるだろう、現在はその要に大阪がある。

文化創出の中心である関西からもう一度、日本は唯一無二の文化を持っていると知らしめたい。

そこで、大阪市における主要な交通手段となっているOsakaMetroであれば、国内外問わず様々な人の目に留まり、生活や文化を取り入れられると考えた。

今後も訪れ続ける海外観光客や万博開催に向け、改めて日本文化の美しい魅力を人々に伝えていきたいという想いから成る物である。



審査会賞
(インテリア部門3位)

梁村 結

YANAMURA, Yui

